

坂出・綾歌支部国語部会

坂綾・白峰中 苧坂 恭子

1 研究主題

昨年度の全日本中学校国語教育研究大会香川県大会での提案発表を受け、「生きて働く力を育む国語教室」を研究主題とし、言葉による見方・考え方を働かせて深める指導と評価について研究を進める。

2 研究の進め方

- (1) 4月25日 坂出中学校
研究組織決定、研究主題の決定
研究活動の計画
- (2) 6月7日 附属坂出中学校
教育研究発表会
- (3) 7月30日 社会福祉総合センター
香中研夏季研修会
- (4) 9月30日 坂出中学校
研究授業、討議

3 研究の要旨

- (1) 研究テーマ設定の理由
学習指導要領では「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」として三つの視点が示されている。本部会ではこれまで学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組むこと、自己の学習活動を振り返って次につなげること等、主体的に学ぶ授業づくりを目指して研究を進めてきた。

今年度はこれまでの研究を継承しつつ、生徒らが言葉による見方・考え方を働かせ、考えを深められるような学習指導や言語活動の工夫、また学習評価の在り方について研究を進めていくこととした。

(2) 実践の概要

① 研究の視点

- ア 自分の考えを効果的に相手に伝えるための、吟味・推敲する活動や相互評価の在り方
- イ 「学びの深まり」を実感するための振り返りと評価の工夫

② 附属坂出中学校教育研究発表会

- ア 公開授業「カッコいいとは一君は『最後の晚餐』を知っているか」
(第2学年)

授業者：香川 千夏 先生

指導助言者：

香川県教育委員会義務教育課

指導主事 尼子 智悠

香川大学教育学部

講師 浅井 哲司

本授業では、本文中の「修復された絵画に関する記述」の必要性について授業者が問いかけ、その問いをきっかけとして、記述が本文全体にどのような影響を与えているのか、どのような効果をもたらしているかを考えることができていた。授業後の指導では、尼子指導主事より生徒が作品や題材を評価する際、漠然と評価させるのではなく、思考ツールや他者との比較、点数化など活動に応じた評価をするとよいという話があった。評価の在り方について考えることができた授業であった

イ 教科研究協議会

「言語による認識の力をつけ、豊かな言語文化を育む国語教室の創造—『遊び』のなかで言葉や読み方を捉え直す国語科授業の在り方—」

ウ シンポジウム・講演

(慶應義塾大学 鹿毛雅治先生)

「授業づくりを語る～子どもとともに主体的な学びの場を創る」

③ 坂出・綾歌支部教科研修会

ア『初恋』～友だちの表現の工夫を解説しよう～（第3学年）

授業者：三宅 葵先生（坂出中学校）

〈実践のポイント〉

- ・ 情景を想像しやすくするために「上げ初めし前髪」や「花櫛」「薄紅」のようなイメージしにくい語句や比喻表現・婉曲表現について写真を示したり、現代語に置き換えたりする。
- ・ 象徴表現を意識して詩を読むことができるようにするため、第5連を作詩し、それを互いに評価し合う活動を行う。

〈指導上の留意点及び支援〉

- ・ 友だちの詩を評価する際の視点として「詩の中での二人の関係性の変化」「象徴表現としての林檎」に特に注目させる。
- ・ 詩を推敲したり共有したりする活動を円滑に行うために、ロイロノートを活用する。



イ 「詩」の学習指導と評価について

各校における詩の学習指導とその評価の在り方について情報交換等を行った。詩の単元終了後に学んだことを踏まえて朗読した音声データをロイロノートで提出させ評価したり、指導と評価の一体化に向けて定期テストにおける評価基準等を校内で設定していたりする事例などが紹介された。

(3) 研究のまとめ・成果と課題

① 研究の成果

作品を推敲したり、互いに評価したりする活動を通して、生徒は表現や言葉の使い方が妥当であるか、相手に自分の思いを伝えるためにはどうすればよいか意欲的に考えることができた。単元後の振り返りやインタビューからはグループ活動に関する記述が見られ、級友との対話によって新たな視点が得られたり、考えが深まったりしたことがうかがえた。また、振り返りにおいて単元で学んだことと社会生活とのつながりを意識させたり、学びをさらに応用させるような問題を定期テスト等で実施したりした。これにより、生徒らは学んだことを再認識したり、他に活用できる汎用性のあるものだと実感したりすることができたと考える。

② 今回の研究実践の課題として、根拠を明確にして作品を吟味したり、批評したりすることが十分ではなかったことが挙げられた。加えて、生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組めるよう、学習課題や学習指導過程の工夫などをしていく必要性を実感した。

また、今年度は各校の評価の規準や評価方法について情報交換を行い、今後の評価の在り方について研究を進めることができたが、まだ十分とは言えない。評価の規準を明確にしたり、評価方法等についての研修を進めたりすることで「生きてはたらく言葉の力」を育む授業づくりに取り組んでいきたい。